

『効果の見える治水事業』

愛媛県 光満川の総合流域防災事業

愛媛県南予地方局建設部長

みよし のりまさ
三好 憲正



■事業の概要

光満川は愛媛県宇和島市北部に端を発し、市内を貫流して宇和島港に流れ出る二級河川須賀川の第一支川であり、流域面積 37.8km²、延長約 8.2km を有する中小河川です。

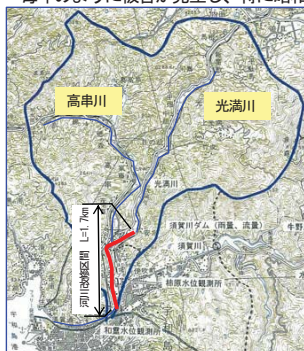
当河川は過去の災害により部分的な改修は行われておりますが、人家や商業施設が連担する区間においては、堤内地盤高が他の区間に比べて低く、部分的に狭窄部を有していることから、ひとたび豪雨になると、河川の氾濫により



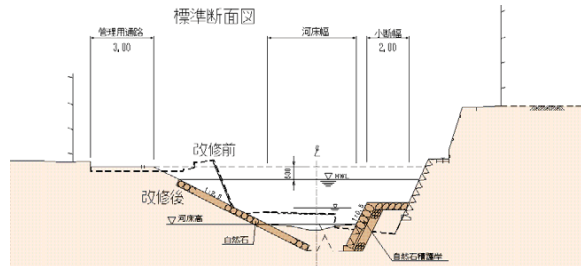
毎年のように被害が発生し、特に昭和 63 年 6 月洪水、平成 5 年 9 月洪水、平成 9 年 9 月洪水では周辺地域に大規模な浸水被害を及ぼしてきました。

愛媛県では、流域市街地の水害を防止することを目的として、二級河川須賀川合流点より上流 1.7km 間において、平成 9 年度から国庫補助の中小河川改修事業（総合流域防災事業に事業名変更）で河川改修に着手し、平成 22 年度に完了しました。

整備にあたっては、河道改修による治水機能の向上を目指すとともに、小型魚の生息や水際植生に配慮し、アンカー式空石積工法や自然石を金網に固着させる空石張工法を取り入れ、河道内における生物生息環境の保全及び改善を図りました。また、落差工を解消し、自然石を用いて低水路を整備し、濁水時の滞筋を確保することとしました。



事業開始から 14 年間の歳月と 16 億円におよぶ事業費を要しましたが、改修工事を無事完了することが出来たことから、今後は、宇和島市の安全・安心な暮らしの確保と地域の発展に大きく貢献出来るものと考えております。



光満川河川改修の完成を受けて

宇和島市長 いしばし ひろひさ
石橋 寛久



宇和島市は、愛媛県西南部に位置し、伊達秀宗が慶長 19 年（1614 年）宇和島 10 万石の藩主として封ぜられて以来、当地域の政治、経済、文化の中心地として発展してきた人口約 8 万 5 千人の市です。西側を除く三方は急峻な山々に囲まれ起伏の多い複雑な地形となっており、沿岸部の平野や内陸部の盆地に市街地や集落が点在しています。

光満川は宇和島市中心部を流れ、和霊大祭の勇壮な「走り込み」が行われる須賀川に合流する二級河川で、これまで部分的な補修工事等は実施されてきましたが、本格的な河川改修は未着手でした。

中でも須賀川との合流点付近については、他の区間よりも堤内地盤高が低く狭窄部があることから、昭和 63 年 6 月の豪雨による洪水では 200 戸を超える多数の浸水被害が発生しました。その後も平成 5 年 9 月、平成 9 年 9 月と度々氾濫し、沿川住民は常に不安を抱えてきました。

このため、平成 9 年度から浸水被害の軽減を図るべく河川改修事業が進められ、河川幅の拡幅及び河床掘削等が実施されました。平成 22 年度に改修工事が完成し、環境面にも配慮された安心、安全な河川となり住民も安堵しております。

県担当部局の長年にわたるご尽力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも本市における河川事業につきまして、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。



宇和島城



和霊神社

(石造りでは日本一の大きさといわれる大鳥居)